



# すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

平成31年1月7日 No. 496

## 「目標」をもつことの意味

校長 齋藤 瑞穂

2019年の幕が上がりました。

この年末年始は、全国的に大変な寒波に襲われましたから、お家の中でのんびり過ごされたご家庭が多かったのではないのでしょうか。家族団らんでたっぷり甘え、すっかり満たされた笑顔の子供たちが、元気いっぱい登校してきました。短いながら楽しかった冬休みの思い出を、友達や先生に聞いてもらいたくてうずうずしている、そんな姿もたくさん見られ、微笑ましかったです。

さて、今年は亥年です。

イノシシというと、最近では、人里に下りてきては農作物を荒らしたり、人に怪我を負わせたりという、マイナスのイメージが強くなってしまいました。しかし、イノシシの肉は栄養価が高く病気予防になることから、元来「亥」は無病息災の象徴とされているということです。また、猪突猛進の言葉どおり、目標に向かって猛進していく人を助ける「火の神の化身」ともされているそうです。

去年は、今年の漢字に選ばれた「災」が象徴するように、自然災害ばかりか人災も多い年でした。今年は一転、一人一人がそれぞれの目標達成へ向けて、無病息災に邁進する年としたいものです。

毎学期始め、子供たちには「目標をもとう」と話します。そして、「目標は願い事ではないから、達成するために努力しよう」とも話します。各学級では、「〇学期のめあて」として、クラスの目標とともに一人一人のめあてを掲示してあります。しかし、目標をもつこと、もたせることの意味を、大人は考えているか、新年始めに当たって反省とともに今

一度向き合ってみたいと思います。

毎日が新鮮な驚きと発見に満ちている子供時代は、たとえあらためて目標を立てなくても、一日一日、体も心も大きく成長していきます。毎日学校に通い、時間割に従って授業を受け、さまざまな行事を経験し、スポーツをしたり本を読んだり、遊んだりケンカしたりしながら、どんどん賢く大きくなります。

そんな子供たちに、大人があえて「目標」をもたせるのは、「目標をもつこと」「目標に向かって努力すること」を学ばせたいからに外なりません。なぜなら、目標をもって努力し、達成できた喜びが自信となって、次の目標へチャレンジする力となることを知っているからです。そして、これが肝心なのですが、「目標をもつこと」はともかく、「目標に向かって努力をすること」は、大人になってからそうやすやすと身に付くものではないのです。子供時代に、簡単な目標をしっかりやり遂げる、その経験を積み重ねながら、徐々に確かに身に付けていかなければならないものなのです。だから、子供たちには繰り返し、「目標をもとう」と語りかけなければなりません。

今日から三学期が始まりました。今朝も全校朝会では「目標をもとう」と話しました。具体的に達成や実現がはっきりわかるものにしようとも話しました。子供たち一人一人が、それをお題目とせず、きちんと達成できるようにご家庭・地域でも励ましてあげてください。そして、達成できた時には、大いに褒めて、ともに喜んでください。

三学期も杉並第七学校へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。